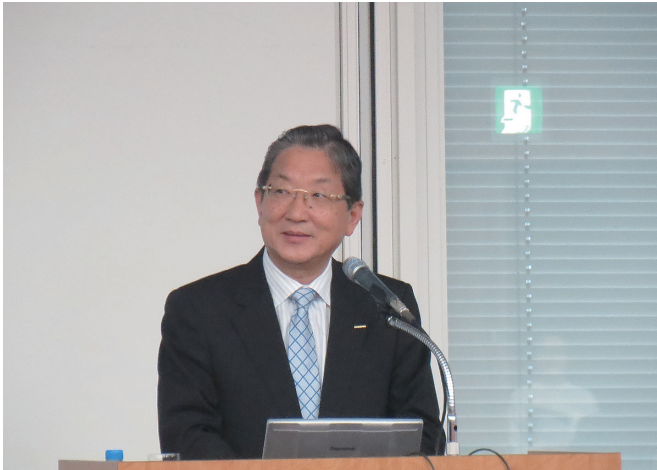


CDP2014 優秀企業

日産自動車株式会社

『人と車と自然との共生』 2年連続トップスコア



日産自動車株式会社代表取締役副会長 志賀俊之氏

今回、CDLI、CPLI 2年連続で選出され、又今年のスコアはデイスクロージャー、パフォーマンス共にトップスコアと言う事で大変光栄です。と同時に更に投資家の皆様の期待にお応えすべく、今後更に精進をしてゆかなければならないと思っております。

自動車産業は130年前、化石燃料での車の誕生により、人々の生活を豊かにし、経済社会の発展に貢献をしてきました。

しかしその一方では有限な地下資源エネルギー、CO₂の発生、地球温暖化、そして気候変動、大気汚染、交通渋滞、交通事故等多くの社会的問題も共に生んできました。

そのような状況の中で、自動車会社としては社会的責任のみならず企業の戦略として、環境問題、社会問題に真摯に取り組んでいくことが非常に重要となっております。当社では2000年以来、その行動を多くの方々に知って頂くため中期環境行動計画、日産グリーンプログラムと言う中期的な行動計画を制定発表して、その環境行動の進捗状況を定期的にインターネット上で開示しています。

最初の2005年には大気汚染に焦点を絞り、スパーミッション、ローミッション、ビッグルなどの普及に努め、グリーンプログラム2010年では幅広くCO₂の削減に取り組んで、ゼロミッションでは電気自動車の導入を発表致しました。そしてその通り、201

0年の12月3日には電気自動車日産リーフを日米欧で発売し、以来4年を経て9月末には既に世界中で14万台の電気自動車を普及させております。

更にグリーンプログラム2016年では更に電気自動車の普及に努め、CO₂の削減につきましても幅広くバリューチェーン、サプライズチェーン等、全体的な削減を図り、更に加えてCO₂のみならず水資源や車の製造時の材料資源の削減などにも取り組んでおります。

この考え方はCDPの中の自然資本の重要性を語るという事では合致しており、正に私共の企業活動自体がデイスクロージャー、パフォーマンスに沿ってこの構想は得られていると思います。

この環境問題につきましては更に複雑化しており、問題解決にあたっては一企業だけではなく様々な形での協力体制が重要となっております。

今回頂きましたこの優秀賞の受賞を励みに今後益々真摯に環境問題に取り組む、当社企業理念である『人と車と自然の共生』を達成すべく努力をして参りたいと存じます。